

第2回 ワークショップテーマ

『施設の「使い方」を考える』
～「これから」新しい施設の使い方～

一般の部

概要

日時：2021年10月3日(日) 10:00～12:00
場所：マイタウン白河 地下大会議室
参加者：8名



市民会館跡地に整備する複合施設について、市民の意見やアイデアを基本設計にいかすため、前回に続き第2回複合施設市民ワークショップを開催しました。今回のワークショップでは、前回の意見確認、複合施設に求める機能やシステム、参考にしたい先進事例などについて、意見を出し合いました。

前回のワークショップをふりかえって

自分では分からない角度から意見を出し合うことができた。

市内の既存施設の繋がりが薄いように思った。

市内の施設についてあまり知らない事が多く、見聞を広める必要性を感じた。

自分にとって当たり前だった施設を必要としない人がいるということを知った。

一般の部 まとめ

- SNSによる発信や冊子、郷土資料の展示室を入れるなど、複合施設を『白河の街や市内公共施設の情報発信の場所』にしたいという意見がありました。
- 行政機能の夜間窓口や相談室、また飲酒の許可や夜市など大人も遊べるような場所とすることで、年齢も職業も異なる様々な人が利用できるのではないかと意見がありました。
- その他共通意見として、循環バスなどのモビリティに対する意見、PCや工具などの貸し出しシステムが欲しいという意見、子どものための施設・設備に関する意見がありました。



一般の部 内容

A班

複合施設をみんなが利用するために：情報発信

白河の人は食いつきはよいが、引きが早い
SNSでの発信がされるとよい(自分から探さなくても施設が見つかる)
複合施設完成後も利用者の意見を反映してほしい

夜カフェ
夜間窓口がある(木曜延長窓口→日曜AM)

複合施設をみんなが利用するために：いつでも行ける施設

すべての世代、すべての時間帯でストレス発散のできる場所
白河の街20時には何もなくなる、真暗
夜やっている日中來られるのでよい
夜間窓口がある(木曜延長窓口→日曜AM)

生きがいきり機能

ものづくりスペース(工具・ミシン等借りるDIYスペース)
男性も来やすい
cf. tette キッチンと畳スペースが一緒のところが多い

子育て支援機能

施設に母子が来られるシステム(ex.手帳見せればタクシー無料)
←実施されれば駐車場問題解決?
低料金で学習できる場所があるとよい

その他(共用部など)

白河のバスの存在を知らなかった
ふくしま100円循環バス(白河は200円)
駐車場は敷地内にほしい(近くでも敷地外に駐車場があるのは億劫)

映画館がない(昔は福島・郡山に、今は那須へ)

日曜は休みなので出たくない
24時間使えるとよい
通勤者などが分かりやすい、アンテナショップのよなものが多い

大人でも子どもでもない時間なら思い切り遊べる

cf. 黒磯駅周辺夜市をこの施設でやれるとよい
風の色と夜の顔が違ってよい
子ども連れがいると使いづらい時がある
←子ども連れの方は逆に迷惑かもしれないと気づいている

お酒が飲めるとよい
成人男性は飲み会がないと外に出ない

中庭(公園)を囲んだ施設がよいのでは?
水遊び場がほしい
cf. プレイパーク ルーツのもり 高校生も来やすい

駐車場の空きが少なく、マイタウン利用を諦めているケースあり
cf. デンマークの教育 子どもが自由に考えて実行するスペース
cf. デンマーク 森の幼稚園 屋外での教育

B班

健康増進機能

健診ルームが多目的な使い方ができるとよい

市民支援機能

臨床心理士の相談
カウンセリング等、気軽に相談できる場(弁護士は敷居が高いので)

交流機能

吹き抜けがあるとよい
車がない子育て世代の移動に配慮
実のなる樹を植えて子ども達が収穫できるとよい
他の施設との交流を円滑にする施設

その他(共用部など)

白河市の郷土資料、観光案内ができる施設
観光案内拠点の1つとして

SNS(Instagramが使いやすい)を使用した宣伝

防犯対策機能

生きがいきり機能

汚れている部屋(絵・習字など)
調理室がほしい(災害時活用可)
ゲームや娯楽趣味ができる場所

大人・子ども共に工具等を使用した体験スペース
家電等をレンタルできるシステム

子育て支援機能

市の職場紹介や体験ができる場所
ファミサポの料金を抑えるには市の助成が必要(責任ある仕事を全うしてもらうため)
託児スペース(ファミサポを行う場)がほしい

短時間でもいいので子どもを預けておける場所がほしい

第2回 高校生の部 ワークショップテーマ

『施設の「使い方」を考える』

高校生の部

～白河の公共施設の現在を考えよう～

概要

日時：2021年10月3日(日)
13:30～17:00
場所：コミュニティ・カフェ EMANON
参加者：8名

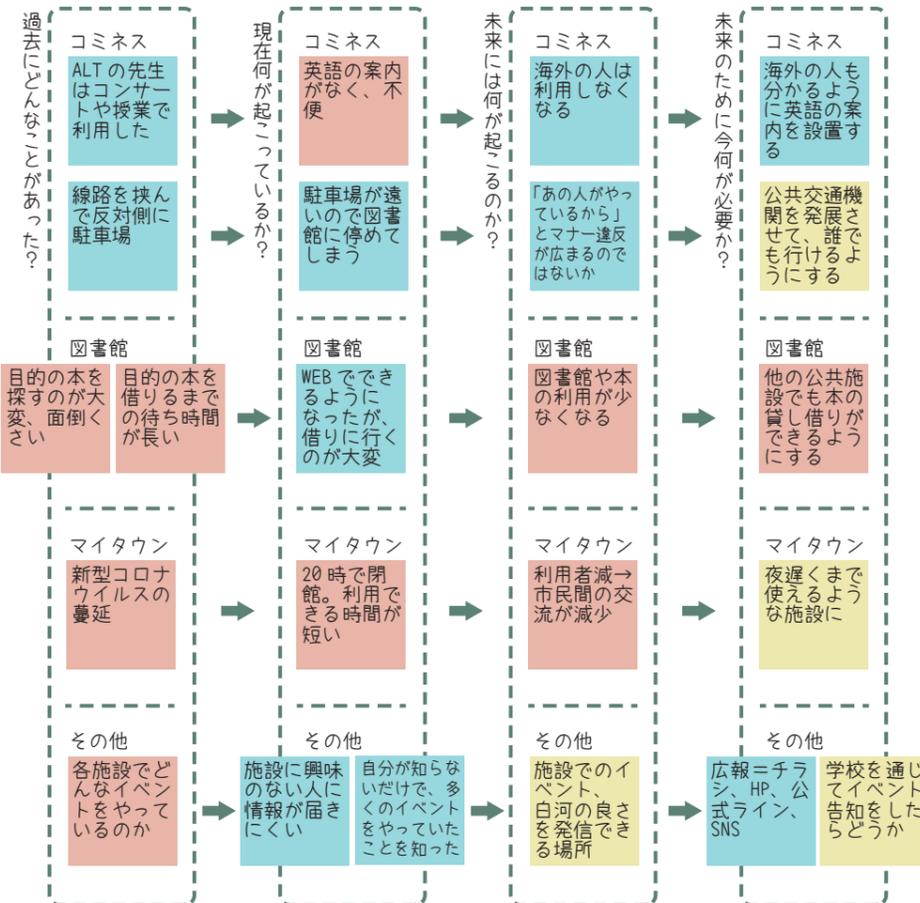


第2回の高中生ワークショップでは、白河市内にある3つの公共施設関係者によるインタビューとトークセッション、新施設の利用者を具体的にイメージしたペルソナ分析を行いました。

高校生の部 内容

前回課題：「公共施設を使っていること」

前回出された課題「公共施設を使っていることについて身近な人3人にインタビューをする」に関して、グループで「過去」「現在」「未来」の視点で内容の発表を行いました。



市内公共施設関係者 インタビュー&トークセッション

白河市の3つの公共施設（マイタウン白河、図書館、コミネス）の施設関係者から、それぞれの施設の沿革、使われ方や実情など、自由なテーマで話を伺い、意見を交換しました。



司会 コロナ禍で苦労したことは？

マイタウン 楽市白河は地域活性化のための会社なので、できる安全対策をしてイベントを行なっている。

図書館 コミュニケーションがとりにくくなってきた。図書館が全部閉まるのは歴史上初だったが、工夫しながらなんとか運営している。

コミネス 昨年度はホールに50%しかお客さんを入れられなかったため、収入源が少なくなっていた。今は元に戻っている。

司会 施設をつくる上で考慮されている点は何か？

マイタウン 施設内まで日差しが入るように改修して天窗を設置。正面玄関は採光のためガラス張りに。中が見える安心感を重視した。

図書館 デザイン的にも1階が全面ガラスになっていて、開放的。評価の高い建物になっている。

コミネス 白河も冬になると雪が降るので設計時の工夫が必要。

司会 イベントの告知はどのようにしているのか？

マイタウン サイトで告知、チラシを作って各家庭に入れるなど。発信側の努力も必要だが、受け手が好奇心がない状況。

図書館 人伝いになっている。SNSや新聞など。活字を読む人は多いので、新聞社に情報を投げ込んでいる

コミネス A4サイズで広報紙に封入、全家庭にコミネスを伝えている。

グループワーク：わたしたちが幸せにしたいひと

後半からは、ペルソナ分析（＝データを基に架空のユーザーを作り、そのユーザーが満足するように、商品やサービスを設計するマーケティング方法）を行い、未来に完成する公共施設を使う「わたしたちが幸せにしたい人」を具体的に設定しました。

